

群と位相（横田一郎）

使用しているのは第 17 版第 17 刷.

射影空間と古典群の定義

■記号等

- $\mathfrak{J}(n, K), \mathfrak{J}_+(n, K)$. (p.51)
- $KP(n-1) = \{ X \in M(n, K) \mid X^* = X, X^2 = X, \text{Tr}(X) = 1 \}$. (p.58)
補題 27 から $X \in KP(n-1)$ は $A \in G(n, K)$ によって $X = AE_n A^*$ と表すことができる. これによって, 積を導入する. すなわち, $X, Y \in KP(n-1)$ を $A, B \in G(n, K)$ を用いて $X = AE_n A^*, Y = BE_n B^*$ とした時, X と Y の積を $(AB)E_n(AB)^*$ とする.
- $S_d = \{ (\xi, x) \in \mathbb{R} \times K \mid \xi(\xi-1) = |x|^2 \}$. (p.58)

2

射影空間と古典群の位相

■記号等

- $D_a \in M(n, K)$ ($a \in S_K^{n-1}$) : $D_a a = -a$; $(x, a) = 0$ ($x \in K^n$) なら $Dx = x$. (p.123)

3

射影空間と古典群の胞体分割

■記号等

$$\bullet D_{(\kappa, \mathbf{a})} = (\delta_{ij} + (\kappa - 1)a_i \bar{a}_j)_{i,j=1,\dots,n} \in M(n, \mathbb{C}) ; \mathbf{a} \in S_{\mathbb{C}}^0, \mathbf{a} \in S_{\mathbb{C}}^{n-1}. \quad (\text{p.151})$$

■定理 30 $h: S_d \cup V_K^2 \rightarrow KP(2)$ は $f: S_d \rightarrow KP(2)$, $\varphi_2: V_K^2 \rightarrow KP(2)$ で構成される. f は $S_d \rightarrow KP(1)$ の同相写像であり (定理 28 の証明), φ_2 の制限は同相写像 $E_K^2 \rightarrow e^{2d} = KP(2) - KP(1)$ と, $S_K^1 \rightarrow KP(1)$ (定理 29 の証明) である. 従って, $h: S_d \cup V_K^2 \rightarrow KP(2)$ が全射であることは明らか. ここで, $p, p' \in S_d \cup V_K^2$ に対し, 次の同値関係を定義する:

$$p \sim p' \Leftrightarrow p = p', \quad f(p) = \varphi_2(p'), \quad f(p') = \varphi_2(p).$$

$(\xi, z) \in S_d$, $(x, y) \in S_K^1$ として, $f(\xi, z) = \varphi_2(x, y)$ とおく. 実際に計算すれば, これは $\nu_K(x, y) = (\xi, z)$ であることが分かる. すなわち, 上の同値関係は

$$p \sim p' \Leftrightarrow p = p', \quad p = \nu_K(p'), \quad p' = \nu_K(p).$$

この同値関係による等化集合は $S_d \cup_\nu e^{2d}$ である. ところで, これは S_d の元を f で写したものと S_K^1 の元を h で写したものが等しければ, それらの元を同一視しているので, 全単射 $\tilde{h}: S_d \cup_\nu e^{2d} \rightarrow KP(2)$ が誘導される.

■補題 112

準備のための写像

証明 $p_k: O(k) \ni A \mapsto Ae_k \in S^{k-1}$ は定理 15 の証明 (p.104) で与えられている. $h_k: V^{k-1} \ni \mathbf{x} \mapsto (-2\mathbf{x}\sqrt{1-\|\mathbf{x}\|^2}, 2\|\mathbf{x}\|^2-1)$ は定理 27(p.136) で与えられた $e^{k-1} = S^{k-1} - e^0 = S^{k-1} - e_k$ の特性写像で, 同相写像 $h_K: E^{k-1} \rightarrow e^{k-1} = S^{k-1} - e_k$ を誘導する. $\varphi_k: V^{k-1} \ni \mathbf{x} \mapsto (x_i \bar{x}_j)_{1 \leq i, j \leq k}$ は定理 31(p.140) で与えられた e^{k-1} の特性写像で, 同相写像 $E^{k-1} \rightarrow e^{k-1}$ を誘導する. \square

■定理 32

$O(n)$ の胞体分割

証明 $\mathbb{R}P(n-1)$ の胞体 $e^{k-1} = \mathbb{R}P(k-1) - \mathbb{R}P(k-2)$ (定理 31, p.140) は $\mathbb{R}P(k-1)$ のうち, (n, n) 成分が 0 で無いもの. 定理 25 の単射 $f: \mathbb{R}P(k-1) \ni X \mapsto E - 2X \in O(k)$ によって e^{k-1} を写せば, $O(n)$ のうち (n, n) 成分が 1 で無いものに含まれる. すなわち, $e^{k-1} \subset O(k) - (k-1)$ である. \square

■補題 127

$$(3) \quad \overline{e^3} = e^0 \cup e^3 = S_{\mathbb{H}}^0 = Sp(1)$$

証明 $\psi_1: V^3 \times V_{\mathbb{H}}^0 \ni (q, 0) \mapsto 1 + 2\sqrt{1-|q|^2}(q - \sqrt{1-|q|^2}) \in Sp(1)$ によって, $\psi_1(V^3 \times V_{\mathbb{H}}^0) = \overline{e^3} = e^0 \cup e^3 \subset Sp(1) = S_{\mathbb{H}}^0$ である (補題 127(1)). $a+b \in S_{\mathbb{H}}^0$ ($a \in \mathbb{R}, b \in V^3$) とする. $a=1$ なら $a+b=1 \in \overline{e^3}$ なので, $a \neq 1$ とする. $q = b/\sqrt{2-2a}$ とおけば, $a+b = \psi_1(q, 0) \in \overline{e^3}$ である. 従って, $S_{\mathbb{H}}^0 \subset \overline{e^3}$. \square

四元数 \mathbb{H}^3 での外積.

証明 $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{H}^3$ は \mathbb{H} 上右線型独立であるとする.

$$a_1x_1 + a_2x_2 + a_3x_3 = 0, \quad a_1y_1 + a_2y_2 + a_3y_3 = 0$$

を満たす $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3) \neq (0, 0, 0) \in \mathbb{H}^3$ を見つけたい.

\mathbf{x} の成分 2 つが 0 のとき. $\mathbf{x} = (x_1, 0, 0)$ とする. $y_2 = y_3 = 0$ なら \mathbf{x} と \mathbf{y} が線形従属となるので矛盾. $y_2 = 0$ なら $\mathbf{a} = (0, 1, 0)$ とする. $y_3 = 0$ なら $\mathbf{a} = (0, 0, 1)$ とする. $y_2, y_3 \neq 0$ なら $\mathbf{a} = (0, y_2^{-1}, -y_3^{-1})$ とする.

\mathbf{x} の成分 1 つが 0 のとき. $\mathbf{x} = (x_1, x_2, 0)$ とする. $y_3 = 0$ なら $\mathbf{a} = (0, 0, 1)$ とする. $y_3 \neq 0$ なら $a_1 = x_1^{-1}$, $a_2 = -x_2^{-1}$, $a_3 = (x_2^{-1}y_2 - x_1^{-1}y_1)y_3^{-1}$ とする.

\mathbf{x}, \mathbf{y} 共に成分が非零のとき. $x_1x_3^{-1} - y_1y_3^{-1} = 0$ なら $\mathbf{a} = (x_1^{-1}, 0, -x_3^{-1})$ とする. $x_1x_3^{-1} - y_1y_3^{-1} \neq 0$ なら $y_3y_1^{-1} - x_3x_1^{-1} \neq 0$ となるので,

$$\begin{aligned} a_1 &= a_2(y_2y_3^{-1} - x_2x_3^{-1})(x_1x_3^{-1} - y_1y_3^{-1})^{-1}, \\ a_3 &= a_2(x_2x_1^{-1} - y_2y_1^{-1})(y_3y_1^{-1} - x_3x_1^{-1})^{-1} \end{aligned}$$

とすればよい. 実際, これを変形して

$$\begin{aligned} (a_1x_1 + a_2x_2)x_3^{-1} &= (a_1y_1 + a_2y_2)y_3^{-1} \\ (a_2x_2 + a_3x_3)x_1^{-1} &= (a_2y_2 + a_3y_3)y_1^{-1} \end{aligned}$$

となる. $a_1x_1 + a_2x_2 + a_3x_3 = s$, $a_1y_1 + a_2y_2 + a_3y_3 = t$ とすれば, $sx_3^{-1} = ty_3^{-1}$, $sx_1^{-1} = ty_1^{-1}$ となる. $s \neq 0$ とすれば $t \neq 0$ となるので, 2 つ目の両辺の逆元を取って $x_1s^{-1} = y_1t^{-1}$. 1 つ目の式とかけて, $x_1x_3^{-1} = y_1y_3^{-1}$ となり矛盾. 従って $s = t = 0$. \square

$A \in Sp(k-1)$ の構成

証明 $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in V_{\mathbb{H}}^{k-1}$ が (右 \mathbb{H} 加群の基底として) 一次独立であるとする. $W = \mathbf{x}\mathbb{H} + \mathbf{y}\mathbb{H}$ とすればこれは階数 2 の自由右 \mathbb{H} 加群. まず, $A\mathbf{x}, A\mathbf{y} \in \mathbb{H}^{k-1}$ の第 3 $\sim k-1$ 成分が 0 となるような $A \in Sp(k-1)$ が存在する. 実際,

$$A_{k-1} = \begin{pmatrix} \mathbf{a}_1^* \\ \vdots \\ \mathbf{a}_{k-1}^* \end{pmatrix}$$

とした際に, $(\mathbf{a}_{k-1}, \mathbf{x}) = (\mathbf{a}_{k-1}, \mathbf{y}) = 0$ となるような $\mathbf{a}_k \in \mathbb{H}$ を選ぶことができる. $\{\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_{k-1}\}$ が正規直交系となるように選べば $A_{k-1} \in Sp(k-1)$ であり (補題 19, p.44), $A_{k-1}\mathbf{x}, A_{k-1}\mathbf{y}$ は第 $k-1$ 成分が 0 である. 従って, $A_{k-1}\mathbf{x}, A_{k-1}\mathbf{y}$ は \mathbb{H}^{k-2} の元とみなすことができる. 上と同様にして,

$$A_{k-2} = \begin{pmatrix} A'_{k-2} & \\ & 1 \end{pmatrix} \quad (A'_{k-2} \in Sp(k-2))$$

によつて $A_{k-2}A_{k-1}\mathbf{x}, A_{k-2}A_{k-1}\mathbf{y}$ は第 $k-2, k-1$ 成分が 0 となる. これを繰り返せば,

$$A\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{pmatrix}, \quad A\mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{pmatrix}$$

となる $A \in Sp(k-1)$ の存在が証明される.

$1 \leq r < k-1$ を, \mathbf{x}, \mathbf{y} の $s+1 \sim k-1$ 成分を取ったベクトルが線形従属となるような s のうち最大のものとする. $\mathbf{z} = \mathbf{x}a + \mathbf{y}b$ の $r+1 \sim k-1$ が全て 0 であるような $a, b \in \mathbb{H}$ が存在する. $W_r = \mathbf{z}\mathbb{H}$ とすればこれは階数 1 の W の部分加群となる. あとは, $A\mathbf{z}$ が第 1 成分のみ非零であるように A を再構成すればよい.

$$A\mathbf{z} = \begin{pmatrix} z_1 = x_1a + y_1b \\ z_2 = x_2a + y_2b \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{pmatrix}$$

となるが, $z_1 = z_2 = 0$ なら $\mathbf{z} = 0$ となり, \mathbf{x}, \mathbf{y} が線形従属となるので矛盾. $z_2 = 0$ ならそれでよい. $z_1 = 0$ なら

$$\begin{pmatrix} & 1 & & \\ 1 & & & \\ & & 1 & \\ & & & \ddots \\ & & & & 1 \end{pmatrix} A \in Sp(k-1)$$

を改めて A とすればよい. $z_1, z_2 \neq 0$ なら

$$\begin{pmatrix} 1 & & & \\ sz_1^{-1} & -sz_2^{-1} & & \\ & & 1 & \\ & & & \ddots \\ & & & & 1 \end{pmatrix} A \in Sp(k-1), \quad s = \frac{1}{\sqrt{|z_1^{-1}|^2 + |z_2^{-1}|^2}}$$

を改めて A とすればよい.

$A\mathbf{x}, A\mathbf{y}$ が線形従属とすれば, \mathbf{x}, \mathbf{y} が線形従属となるので矛盾. 従って $A\mathbf{x}, A\mathbf{y}$ は線形独立. □

4

射影空間と古典群の基本群と被覆空間

■補題 146

$p^{-1}(h(\tau))$ が離散空間

証明 ファイバー空間の定義 (p.176) の直後に書かれているように, $x \in X$ に対し, $p^{-1}(x)$ と F は同相である. □

■補題 149

$u(I) \subset X$ がコンパクト

証明 I は \mathbb{R} の有界閉集合なのでコンパクト. 連続な全射 $u: I \rightarrow u(I)$ に対し命題 59 を適用すればよい. □

v_i が全単射

証明 まず $p^{-1}(x_{i+1}) \cap U(b_{i\lambda})$ が唯 1 点からなることを示す. p の制限によって $U(b_{i\lambda})$ と $U(x_i) \ni x_{i+1}$ は同相なので $p^{-1}(x_{i+1}) \cap U(b_{i\lambda}) \neq \emptyset$. $b, b' \in p^{-1}(x_{i+1}) \cap U(b_{i\lambda})$ とする. $p(b) = p(b')$ で, p は $U(b_{i\lambda})$ 上で単射なので $b = b'$. よって, 写像

$$v_i: p^{-1}(x_i) \ni b_{i\lambda} \mapsto p^{-1}(x_{i+1}) \cap U(b_{i\lambda}) \in p^{-1}(x_{i+1})$$

が得られる.

$x_{i+1} \in U(x_i)$ なので $p^{-1}(x_{i+1}) \subset p^{-1}(U(x_i)) = \bigcup_{\lambda} U(b_{i\lambda})$. したがって, 全ての $b \in p^{-1}(x_{i+1})$ に対して $b \in U(b_{i\lambda})$ となる λ が存在する. よって, $v_i(b) = b$ となり, v_i は全射.

$U(b_{i\lambda}) \cap U(b_{i\mu}) = \emptyset$ なので v_i は単射. □

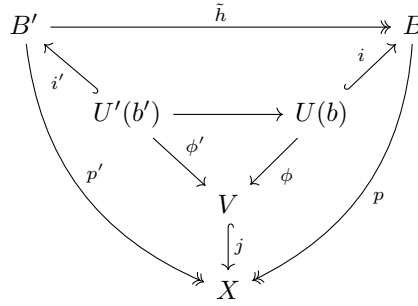
■命題 152

(B', \tilde{h}, B) は被覆空間の性質 (3) を満たす

証明 $b \in B$, $x = p(b) \in X$ とする.

$\tilde{h}^{-1}(b) = p'^{-1}(x)$ を示す. $b' \in \tilde{h}^{-1}(b)$ とする. $b = \tilde{h}(b')$ なので $x = p(b) = p \circ \tilde{h}(b') = p'(b')$. 従って $b' \in p'^{-1}(x)$ なので $\tilde{h}^{-1}(b) \subset p'^{-1}(x)$. 逆に $b' \in p'^{-1}(x)$ とする. 補題 150 より $b = \tilde{h}(b')$ なので $b' \in \tilde{h}^{-1}(b)$. 従って $p'^{-1}(x) \subset \tilde{h}^{-1}(b)$.

$b' \in \tilde{h}^{-1}(b) = p'^{-1}(x)$ とする. 標準近傍 $V \ni x$, $U(b) \ni b$, $U'(b') \ni b'$ を取る. \tilde{h} の制限により $U'(b') \simeq U(b)$ となることを示す.



標準近傍の性質より ϕ, ϕ' は同相で, $p' \circ i' = j \circ \phi'$, $p \circ i = j \circ \phi$ である. よって

$$p \circ i \circ \phi^{-1} \circ \phi' = j \circ \phi \circ \phi^{-1} \circ \phi' = j \circ \phi' = p' \circ i' = p \circ \tilde{h} \circ i'.$$

$p \circ i = j \circ \phi$ は単射なので

$$\phi^{-1} \circ \phi' = (p \circ i)^{-1} \circ p \circ i \circ \phi^{-1} \circ \phi' = (p \circ i)^{-1} \circ p \circ \tilde{h} \circ i' = i^{-1} \circ p^{-1} \circ p \circ \tilde{h} \circ i'.$$

したがって

$$i \circ \phi^{-1} \circ \phi' = p^{-1} \circ p \circ \tilde{h} \circ i' = \tilde{h} \circ i'.$$

さらに標準近傍の性質から

$$\tilde{h}^{-1}(U(b)) = p'^{-1}(V) = \bigcup_{b'_\lambda \in p'^{-1}(x)} U'(b'_\lambda) = \bigcup_{b'_\lambda \in \tilde{h}^{-1}(b)} U'(b'_\lambda).$$

□

■命題 155

v_1, v_2, v_3 の構成

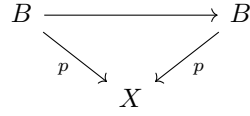
証明 v_1, v_2 は α_*, β_* の定義から存在する. b_0, b_β を結ぶ道 v_2 に対し, $\alpha_*(b_0)$ を始点とし, pv_2 を被覆する道を v_3 とする. α_* の定義から $v_3(1) = \alpha_*(b_\beta)$. $pv_2 = pv_3$ なので, $[pv_3] = \beta$. □

$$(v_1 \cdot v_3)(1) = (\alpha\beta)_*(b_0)$$

証明 $\alpha = [pv_1]$, $\beta = [pv_3]$ なので $\alpha \cdot \beta \in \pi_1(X, x_0)$ の代表元として $p(v_1 \cdot v_3)$ を取れる. $(\alpha\beta)_*(b_0)$ は $v_1 \cdot v_3$ の終点なので, $(v_1 \cdot v_3)(1) = (\alpha\beta)_*(b_0)$. □

$$(\alpha\beta)_* = \alpha_* \circ \beta_*$$

証明 $(\alpha\beta)_*(b_0) = \alpha_* \circ \beta_*(b_0)$ なので, 命題 152 を使うためには $p \circ (\alpha\beta)_* = p \circ \alpha_* \circ \beta_*$ を示せばよい.



α_* の定義から,

$$p(\alpha_*(\beta_*(b))) = p(\beta_*(b)) = p(b) = p((\alpha\beta)_*(b)).$$

□

被覆写像 $p: B \rightarrow X$ は開写像

証明 V を B の開集合とする. $x \in p(V)$ を任意にとる. $b \in p^{-1}(x) \cap V$ とする. 標準近傍 $U \ni x$, $U(b) \ni b$ を取る. $V \cap U(b)$ は $U(b)$ の開集合であり, p は $U(b)$ と U の同相写像なので, $p(V \cap U(b))$ は U の開集合. 従って, $p(V \cap U(b))$ は X の開集合. $x \in p(V \cap U(b)) \subset p(V)$ なので, $p(V)$ は開集合. □

付録

■命題 182

$$\ker \varphi = \{\pm E\}$$

証明 $A \in \ker \varphi$ とすれば, 任意の Hermite 行列 $X \in \mathfrak{J}(3, K)$ に対し $AX = XA$ となる. ここで,

$$X = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とすれば,

$$\begin{pmatrix} a_{11} & 0 & 0 \\ a_{21} & 0 & 0 \\ a_{31} & 0 & 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}.$$

よって $a_{12} = a_{21} = a_{13} = a_{31} = 0$.

$$X = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とすれば $a_{23} = a_{32} = 0$. 以上から, A は対角行列.

$$X = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とすれば $a_{11} = a_{22}$.

$$X = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とすれば $a_{11} = a_{33}$. よって, $A = aE$ ($|a|^2 = 1$) と表せる.

$K = \mathbb{R}$ なら $a = \pm 1$, $K = \mathbb{C}$ なら $a = e^{i\theta}$.

$K = \mathbb{H}$ の場合を考える.

$$X = \begin{pmatrix} 0 & i & 0 \\ -i & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とすれば $ai = ia$. $a = a_0 + a_1i + a_2j + a_3k$ ($a_i \in \mathbb{R}$) とすれば $a_2 = a_3 = 0$.

$$X = \begin{pmatrix} 0 & j & 0 \\ -j & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とすれば $a_1 = a_3 = 0$. 以上から $a \in \mathbb{R}$ なので $a = \pm 1$. □

$$\mathrm{Tr} \alpha(E_i) = 1, \quad U E_i U^* = \alpha(E_i)$$

証明 $\alpha(E_i \circ E_i) = \alpha(E_i) \circ \alpha(E_i)$ なので $\alpha(E_i)\alpha(E_i) = \alpha(E_i)$. $i \neq j$ ならば $E_i E_j = 0$ なので $\alpha(E_i)\alpha(E_j) = 0$. $E_1 + E_2 + E_3 = 1$ なので $\alpha(E_1) + \alpha(E_2) + \alpha(E_3) = 1$.

冪等行列 $\alpha(E_i)$ の固有ベクトル \mathbf{v}_i の張る部分空間 W_i を考えれば^{*1}

$$\mathrm{Tr} \alpha(E_i) = \mathrm{rank} \alpha(E_i) = \dim W_i = 1.$$

さらに \mathbf{v}_i の固有値は 1.

$\mathbf{v}_2 \notin W_1$ なので $\alpha(E_1)\mathbf{v}_2 = \mathbf{0}$. よって $\mathbf{v}_1^* \alpha(E_1) \mathbf{v}_2 = \mathbf{0}$. したがって

$$0 = \mathbf{v}_2^* \alpha(E_1)^* \mathbf{v}_1 = \mathbf{v}_2^* \alpha(E_1) \mathbf{v}_1 = \mathbf{v}_2^* \mathbf{v}_1.$$

同様にして $\mathbf{v}_i^* \mathbf{v}_j = \delta_{ij}$ となるので

$$U = (\mathbf{v}_1 \quad \mathbf{v}_2 \quad \mathbf{v}_3) \in G(3, K).$$

したがって,

$$U^* \alpha(E_1) U = \begin{pmatrix} \mathbf{v}_1^* \\ \mathbf{v}_2^* \\ \mathbf{v}_3^* \end{pmatrix} (\mathbf{v}_1 \quad \mathbf{0} \quad \mathbf{0}) = E_1.$$

よって, $U E_i U^* = \alpha(E_i)$. □

$E_i \circ F_i^x = 0$ および $2E_i \circ F_j^x = F_j^x$ ($i \neq j$) を満たす $F_i^x \in \mathfrak{J}(3, K)$ は

$$F_1^x = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & x \\ 0 & \bar{x} & 0 \end{pmatrix}, \quad F_2^x = \begin{pmatrix} 0 & 0 & \bar{x} \\ 0 & 0 & 0 \\ x & 0 & 0 \end{pmatrix}, \quad F_3^x = \begin{pmatrix} 0 & x & 0 \\ \bar{x} & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

のみ.

^{*1} 佐武線型代数 p.131–132